

学校教育目標		めざす子どもの姿(中期的目標)		総合評価				
よく考え、工夫する子ども(確かな学力) 人やものにやさしい子ども(豊かな心) 進んで取り組み、やりぬく子ども(自主自立)	笑顔あふれる 中塩田の子 【一人になれる 一つになれる】			前期の評価と大幅に変わった点は見られなかった。但し、保護者の方や児童の自己評価から、家庭でのゲームやスマホなどの取り扱い方について課題が見られる傾向が強くなっている。保護者の方からのコメントでは、『スイッチを切ってみよう』やゲームやスマホなどに依存をしない呼びかけ、危険性への啓発を学校で取り組んでいることを肯定的に捉えていただいているご意見が多い。学校では継続して、ゲームやスマホ、情報端末機器との関わり方やルールなどの取り組み・出前講座などを継続させていく。				
	今年度の重点目標			成果と課題				
	①	よく聴いて、自分の思いを表現できる子(話す・かく)		A	B	C	D	改善策・向上策
	②	自分から挨拶し、相手も大切にできる子(温かい言葉・思いやり)						・高学年期における辞典の活用を積極的にを行い、語彙を豊かにしたい。 ・表現できる子を育てていくためには、聴く姿勢や態度の確認を改めて行い、互いの話を聴く習慣を身に付けていく。 ・地道な声かけや模範的な姿を示すことにより、習慣づけたい。 ・児童会による挨拶運動やなかよし旬間の取り組みなど、子どもたちから発信して取り組めるような活動を充実させる。
③	友と協力し合い、作業や活動に根気よく取り組む子(黙々活動)						・清掃活動は、学年の発達段階に応じて、取り組むためのめあてを与えていく。 ・ペアやグループで活動する良さを実感できるような場面を意識的に設定していく。	

領域	対象	評価の観点	評価方法	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
重点目標	A	わかりやすい板書	「ねらい」や「まとめ」を板書に位置づけ、授業の流れが分かる板書を心がけているか。	アイウエオ	○流れがわかる板書計画を立てて授業に臨んだ。 ○多くの先生方の授業を参観させていただいたことにより、自身の授業改善につなげることができた。 ●まとめの時間の確保が徹底できない。				・すっきり見やすく板書し、色チョークを効果的に使う。 ・高学年に向けて、自分の言葉でまとめる力が付くように、ねらいが明確な授業づくりに取り組んでいく。
	① B	ふり返りの時間の確保	ふり返りや発表の場を位置づけ、子ども自身が学びの成果を実感できる工夫をしているか。	アイウエ	○その時間の学習について、自分の理解がどうだったかふりかえることができる子が増えた。 ○学習の区切りや単元のまとめとして、ふりかえりの時間を意識的に設けてきた。 ●教科によってふりかえりに差が出てしま				・教科の違いに関わらず、ふりかえりができるようなふりかえりシートを活用してみる。 ・時間に余裕をもつて進めていけるような授業改善にもつめていく。
	C	家庭学習の充実	家庭学習の手引きをもとに、家庭と連携した家庭学習や自主学習の充実を努めているか。	アイウエ	○個に応じた課題を与えたことにより、学習内容の定着を図ることができた。 ○長期休みの宿題も含め、しっかりと取り組んでくることが多い。 ●与えられた宿題の提出率はよいが、自主学習が個人差が大きい。				・子どもたちが主体的に取り組める家庭学習のあり方や内容について検討していきたい。 ・低学年では宿題の定着を図り、高学年で、自主学習を意識づけさせたい。
	D	楽しくけじめある学校生活	「挨拶・返事・靴そろえ・場に応じた姿勢」を大切に、安全、安心、快適な学校生活に向けて取り組んでいるか。	アイウエオ	○全校集会ができるようになり、場に応じた態度や姿勢を意識する機会が増えた。 ○地道な声かけにより、安全な生活を心がける子どもたちが増えている。 ●名前を呼ばれたり、声をかけられたりしたときに、返事をしない姿が見られる。				・学期を中心に、けじめある学校生活を過ごせるための習慣づけを学校や児童会活動として仕組みたい。 ・「姿勢が悪い」と感じる保護者が約6割おり、学校と保護者での共通認識や取り組みが必要ではないか。
	② E	異年齢の友だちとの活動	異年齢活動を通して、子ども同士が温かい言葉をかけ合い、相手を思いやる意識が高まったか。	アイウ	○なかよしタイムを楽しみにしている子どもが多い。 ○上級生が下級生に優しく関わっている姿が多くみられる。				・継続した取り組みを行う。 ・上級生の優しい姿を、下級生の子たちが自分自身の友との関わりにつなげていけるような声かけをしていきたい。
	F	交流活動の充実	地域の方々や園児、福祉施設の方々等と関わり合えるような活動に取り組んだか。	アイウオ	○金管バンドクラブや合唱部では、発表の機会や地域交流が再開できたことにより、子どもたちの達成感につながった。 ○来入児交流では、意欲的に取り組むことができた。 ●地域の方との交流機会が不十分。				・社会状況を見ながら、外部との交流が増えていこうと考えていきたい。 ・「地域の一員」としての自覚を高めるためにも、地域の大人の方との交流機会を設けたい。
学校運営	G	よく考え行動する児童の育成	よく話を聴き、深く考え、自ら気づいて行動する気持ちを高めたか。	アイウ	○課題を明確に与えることで、進んで行動しようとする子が多い。 ○年間を通して「自分から」を意識づけ、進んで取り組める姿が増えたように感じる。 ●自分から気づき、進んで取り組んでいこうとする姿は不十分。				・子どもたちに任せる場面を意識的に設け、また、教師側も展開を待てるようにしていく。 ・「自分から」行動できた具体を認め、また学級内等で共有していく。
	③ H	体力向上の継続的な活動	マラソンや縄跳び等、進んで継続的に体力向上に向けた活動ができるよう指導を工夫できたか。	アイウ	○マラソン月間中には、児童会が作成したマラソンカードに色塗りをすることで意欲が増し、進んで校庭を走る姿が見られる。 ○冬場、暖かい日が多かったため、外で遊んだり活動したりすることができた。				・体力向上のための目標や取り組みをクラスで設定していきたい。 ・スポーツテストなどを通して、自分の体力について知り、体を動かすことのよさについて意識させていきたい。
	I	仕事に対する意識の醸成	清掃活動や当番活動・係活動、花壇での花づくり等を通して、役割を担うことの大切さや仕事に対する意識を醸成したか。	アイウエ	○児童会の当番活動に責任をもって取り組める子が多い。 ○仕事に意欲的な姿を認められることで、さらに前向きに取り組んでいる。 ○清掃を一生懸命取り組んでいる。				・一人一人に具体的な役割を与え、責任を持って取り組めるようにする。 ・仕事に対する考えが自分事になるように意識付けていく。
	J	学校支援ボランティアとの連携	地域ボランティアとの連携を通して、読書・学習・体験活動・交通安全に対する意識を高めたか。	アイウ	○学習ボランティアの方々のおかげで、復習の機会が確保できている。 ○読み聞かせの時間は回数ではあるが、貴重な時間を過ごすことができています。 ○長野大学の学生さんに定期的に支援していただいた。				・引き続きお願いしていく。
	K	授業のユニバーサルデザイン化	一人一人の子どもにもわかりやすい授業となるように、学習環境を整えることができたか。	アイウオ	○多くの公開授業を校内で見せてもらったことで、学校全体でUD化の3観点や授業づくりに取り組むことができた。 ○授業だけでなく、教室環境を整える意識が、教師と子どもたち共に付いてきている。				・互いの授業を見合うことは、教師自身の学びに繋がっているため、継続していく。
L	職員研修の充実	子どもから学び、子どものための授業にすむために、教職員が互いの実践に学び合いながら研修し、授業に生かすことができたか。	アイ	○図工科による陶芸教室、地域の方によるしめ縄づくり、理科によるべっこう飴づくりなど、職員が楽しめる研修を多く行うことができた。 ●ICTの扱いや活用方法に個人差があるので、定期的な研修を行いたい。				・研修の時間をしっかりと確保し、職員の指導力向上に努めていく。	
M	いじめへの対処	いじめを防止し、いじめがおきた際、適切に対処することができているか。	アイウエオ	○事案に対して、できる限り素早い対応を心がけた。 ○その日のうちの対応や1件1件について個別に対応したことで保護者の方と連携が取れた。 ●防止という点においては不十分。				・日ごろから、一人一人の良さをみんなで見つめ認める学級づくりをしていく。 ・なんでも話せる学校体制や人間関係を築いていく。	